

## シグマ研究委員会光核反応データWG 1994年度第2回会合議事録

日時：1994年9月9日(金) 13:30 - 16:30

場所：原研本部会議室

出席者：井頭、五十嵐、岸田、千葉、村田

欠席者：浅見、井口、北沢、小林、肥田

議事：

1. 前回議事録の確認。

2. 一般報告事項

(a) 村田・井頭両委員が本委員会の報告を行なった。

3. 評価関連事項

(a) 千葉委員が $^{60}\text{Ni}$ を例として光核反応ファイルのMF=1の作成法に関し解説した。各委員はこのMF=1を参考にして、各担当核のMF=1を作成することになった。

4. 評価最終・中間報告

(a) 岸田委員がALICE-Fによる $^{28}\text{Si}$ の理論評価について報告した。ALICE-Fはアルファ粒子生成断面積を極めて大きく評価してしまい、そのために中性子生成断面積と陽子生成断面積が小さく、実験値を全く再現しない。これを解決するために、実験値が存在する断面積に関しては理論断面積を実験値に規格化し、残った断面積をALICE-Fの分岐比で各種断面積に振り分け、最終的な評価値とする予定でいる。

(b) 村田委員が資料PNWG-94-9に基づき評価担当核種の残作業につき報告した。C、N、OのDDXの理論評価を除きほぼ完了。ファイル化は編集委員会の方をお願いしたい。

5. その他

(a) 今回欠席の浅見委員が千葉委員に託した $^{186}\text{W}$ のALICE-Fによる理論評価結果を千葉委員が紹介した。理論値が実験値を再現するように準位密度パラメーターを調整した。 $^{182}\text{W}$ と $^{184}\text{W}$ については、準位密度パラメーターを決定出来る実験値がないので、 $^{186}\text{W}$ と同じ準位密度パラメーターを用いて理論評価を行う予定である。ALICE-Fのガンマ線生成断面積は吸収断面積と比較してかなり矛盾した値を示すので、評価値から除外する予定である。

(b) 今回欠席の小林委員が岸田委員に送付して来た $^{48,50}\text{Ti}$ のデータ評価結果について岸田委員が紹介した。共鳴ピークを2本とした最小自乗適合を行っている。 $^{50}\text{Ti}$ に関しては満足な結果といえる。しかし、 $^{48}\text{Ti}$ については3本ないし4本の共鳴を入れた方が良く見えるので、再評価をお願いする。

- (c) 今回欠席の井口委員が岸田委員に送付して来た Pb の評価作業進捗状況結果について岸田委員が紹介した。本年内にはすべての作業が終わるよう、現在 ALICE-F による理論評価を進めているとのことである。
- (d) 各委員の残作業を確認するためのチェックリストを岸田委員が作成し、次回会合までに各委員に送付することになった。

## 6. 次回予定

- (a) 次回は平成 6 年 12 月 16 日 (金) に原研本部で開催予定。
- (b) 主な内容は、
  - i. 一般連絡事項
  - ii. 評価結果報告 (各委員)
  - iii. JAERI-M 原稿紹介 (各委員)
  - iv. 評価残作業の確認 (各委員)
  - v. その他

### 配布資料：

- PNWG-94-8 :  $^{60}\text{Ni}$  の MF=1 (千葉)
- PNWG-94-9 : D,C-12,N-14,O-16 評価の現状と残作業 (村田)
- PNWG-94-10 : ALICE-F による  $^{28}\text{Si}$  の理論評価結果 (岸田)
- PNWG-94-11 : ALICE-F による  $^{186}\text{W}$  の理論評価結果 (浅見)